

悪を見極め、対抗する

エペソ人への手紙 6章 13節～14節前半

今日は、「エペソ人への手紙 6章」の 2 節・・・正確には 1 節と半分です。13 節と 14 節の最初の部分を学びます。その理由は、すぐにお分かりいただけます。

では、聖書を開いて、可能であればご起立ください。私が読む箇所をついてきてください。ご無理であれば、座ったままで大丈夫です。

では 13 節から、使徒パウロが聖霊によって、エペソの教会へ手紙を書いています。

—エペソ 6:13—

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。

—エペソ 6:14—

そして、堅く立ちなさい。...

祈りましょう。

主よ。御言葉をありがとうございます。あなたの御言葉の中で、今日私たちが学ぶこの箇所に感謝します。主よ。この時間、聖霊によって私たちが集中でき、集中が保てるよう、お願いする必要があります。あなたが今日私たちにご用意くださった、全てを見逃さないように導いてください。主よ。私たちは、私たちがこの聖句を学ぶことで、敵の怒りを買うことをよく分かっています。敵は、私たちが混乱させるために、私たちの気を散らそうと、日々の多忙なことや、しなければならない事柄について考えさせようとするでしょう。ですから主よ、私たちが集中し、専念できるよう導いてください。今日、あなたが私たちのためにご用意されていることを何一つ見逃したく

ありません。ですから主よ、私たちの人生にお語り下さい。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。

きっと皆さん、私がこの章、「エペソ人への手紙」の教えを、慌てずじっくり進めているのにお気づきだと思います。お許しいただければと思いますが、本当に、今日の13節と14節の最初の箇所をしっかりと教えしたかったのです。というのは、主が、私たちに気づかせたい何かがここにあるからです。

私がお話したいのは、「どのようにクリスチャンとしての私たちが、悪魔を見極め、対抗することができるか？」私がお話したいのは、「どのようにクリスチャンとしての私たちが、悪魔を見極め、対抗することができるか？」

前回、来られなかった方々や、前回の動画をご覧になってない方々のために言いますと、私たちは、勝利の中を歩むための最初のステップを見ました。私は、理由があって、このような言い方をしました。「勝利の中を歩む」これが第一段階です。

「勝利の中を歩む」ことは、「敵がどういう者であるか」「敵がどういう者ではないか」を見極め、気付くことです。その理由はこうです。サタンは仮装し、光の御使い（天使）に見せかけます。敵は大変巧妙で、私たちの人間関係、結婚生活、子どもや家族、家庭における争いなど、その背後にいるのが彼だとは、私たちが認識出来ないようにします。職場でのストレスや緊張、その状況など。同僚のせいではないのです。同僚は敵ではありません。妻、夫、子どもたち。彼らは敵ではありません。その従業員は敵ではありません。皆さんが考えていることの正反対です。彼は敵ではありません。

ん。サタンは見つからないようにやって来て、大変巧妙です。「創世記3章」に、サタンは最も巧妙であり、他のどの被造物よりも狡猾であると書かれています。サタンはそんな風に、こっそり見つからないように来て、光の御使いを装います。そしてサタンは私たちを捕らえ、間違っただけの敵に対して、間違っただけの戦いをさせます。皆さんも同意するでしょうか？間違っただけの敵と、間違っただけの戦いをするなら、勝利するチャンスはありません。間違っただけの戦いですから。皆さんの戦う方向が、間違っただけの方に向いているのですから。戦いや奮闘に、ある程度、成功したかに思えても、その内、無駄だったとわかるでしょう。それが正に、敵の思うつぼです。今、このことについて進める前に、「勝利の中を歩む」事について、ある事を指し示すのが、私の役目だと思います。私がこう選んで言う理由は、私たちは「もう既に悪魔に勝利している」からです。この教えのタイトルは、「悪魔を見極め、打ち破る」ではありません。なぜなら、敵は既に敗北しているからです。そして、敵が既に敗北している理由は、イエスが敵を打ち破られたからです。イエスが、私たちのために、私たちの代わりに、葬られ、よみがえられた時に、既に、敵を打ち破り勝利されました。しかし、ここに問題があります。私たちには問題があります。問題というのは、悪魔は、自分が負けた敵だとは、私たちが気づかないよう、見極めないよう、あらゆることをします。悪魔が「そうする時」、「そうするかも」ではなく、クリスチャンの人生で「そうする時」、悪魔はその為なら、クリスチャンの人生において、どんなことでも、何でもしようとしてします。私がこれを指摘する理由は、私たちがすべき全てのことは、悪魔に対抗して立ち向かい、抵抗するため、敵の戦略を見極めることだからです。同じことを別の方法で言います。私たちは、敵に打ち勝つ必要はありません。敵は既に敗北しています。敵に対

して、勝利の中を歩むために、私たちがすべき全ては、

A：彼が敵である

B：これらが敵の戦略である

のを見極めることです。私たちがそうする時、私たちは堅く立つのです。

悪魔に対抗して立つとは、悪魔に抵抗することです。ええ。言うのは簡単ですよ。

ここがポイントです。

私たちは、ただの勝利者ではありません。

イエスのゆえに。

私たちは、圧倒的な勝利者です。(ローマ 8:37)

いえ、私たちは、圧倒的な勝利者であり、ただの勝利者ではありません。キリストを通して、キリストのゆえに、私たちは、圧倒的な勝利者なのです。

その意味が分かりますか？それは「クリスチャンとしての私たちは、戦いが始まる前に、既に、戦いで勝利に立つということを『知る』ことができる」という意味です。

聞きましたか？私たちは既に勝利していて、勝利者「以上」、という意味です。私たちは、既に私たちのものである勝利の中にただ立ち、歩むだけです。立つのです。立つのです。「堅く立ちなさい。」これが、パウロがエペソ人に語っていることです。

また、ローマ人にも語りました。「ローマ人への手紙8章」を一緒に見ましょう。少し時間を取って、34節から37節を見たいと思います。ここは、主が今日、私たちにご用意くださった教えで、理解すべき重要な部分です。パウロが、ローマ人に言っていることを聞いてください。

34節。あとでここに戻るので、覚えておいてください。

—ローマ 8:34—

だれが、私たちを罪ありとするのですか。...

確実にここは、修辭的だ。「罪に定めようとするのはだれですか。」誰もできません。

...死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。

なんと心強いことでしょう。35節、パウロは再び修辭的に問いかけます。

—ローマ 8:35—

だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦惱ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

—ローマ 8:36—

こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊とみなされています。」

そしてパウロはこう言います。聞いてください。

—ローマ 8:37—

しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛して下さった方によって、私たちは”圧倒的な勝利者”です。圧倒的な勝利者なのです。

ヤコブが、悪魔に対抗することを反復し、またこれに関して説明しています。私たちが立ち向かうと、悪魔は逃げ去ります。因みにこの点、次のレンズを通して見てください。パウロは「立つ」を、今日の聖句の中で、3度語っています。

立つ。立つのです。

そこには、「倒れないように、堅く立つ」という意味が含まれています。

戦いが激しさを増す戦場を、想像してみてください。戦いが激しくなると、立ち続ける人がいる反面、残念ながら、倒れる人もいます。これが、パウロが描写している事です。倒れるのではなく、立つこと。また間違いなく走り去ることもありません。

注目してきたように、私たちは、主の導きで次回、武具について学びます。

私が前回、今週にと言ったのは分かっていますが、主の御心なら、来週に。

背中には武具はありません。言い換えると、走り去らず、立つのです。敵が走り去っていきます。たぶんこれは、私の思考回路でこれに臨床名があるのは分かっていますが、私が立ち、敵が走り去るか、または、私が走り去って、敵が立つかのどちらかです。簡単でしょう？ただ全ての層を剥がしていけば、これが、ヤコブが、4章7節で言っていることです。「ですから、神に従いなさい。...」と言っている点に注目してください。

自分自身の強さの中に立つのではなく、神の強大な御力の中に、神の強さにおいて、立つのです。これが、パウロが先ほどの箇所の中で強調していることです。

—ヤコブ 4:7—

ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

なぜ悪魔があなたから逃げるのか知っていますか？なぜなら悪魔は、「敗北した敵」だからです。私は既に、キリストにおいて、悪魔に勝利しているのです。

ここで質問です。「どうやって？」どうやって私たちは、悪魔に対抗するのか？感謝な事に、イエスがご自身を差し出された事が、悪魔に立ち向かい、対抗し、悪魔が逃げ出す完全な模範です。

「ルカの福音書」に興味深い詳細が書かれています。ルカはこう書いています。イエスが悪魔に向かって立たれ、対抗された時、悪魔は逃げました。そしてまた悪魔は、さらに適切な時に戻ってくると。皆さんが私と同じなら、そうだと思いますが、私はそれを聞きたくありませんでした。そうでしょ？「待って、何て？」お、お、敵がこう言うと思いませんか？「わお～、堅く立っている勝利者のクリスチャンだ。私はもう彼らには関わらない！」いいえ！違います。敵は退いて、また再編成し、再び戦略を練って、戻って来ます。敵は大変忍耐強いのです。それが問題なのです。敵は獅子のようにあたりをウロウロ歩き回り、私たちの事を研究します。これが、新約聖書の原語であるギリシャ語の意味で、敵は私たちを研究し、戦略を練ります。「ああ～。彼らはこの領域では隙だらけだぞ。」「ああ～彼は疲れている時、戦わないのが分かった。その時まで待っていよう。」「どうすれば良いか分かったぞ。彼が落胆するまで待とう。それから殺しにかかろう。」それが、敵のすることです。

さてイエスが悪魔に対抗されたとき、大変興味深いのが、イエスのご自分の神性で対抗されませんでした。イエスは神として、完全な神として対抗したのではなく、完全な人間として対抗されました。イエスのご自分の神性ではなく、人として対抗されたのです。なぜか？考えてみてください。もしイエスが、その神性で対抗されたなら、私たちに希望はありません。「そりゃあ、イエスは人間の姿をした神なのだから、対抗できるに決まっている。」しかし、違います。イエスは、私たちのために模範として、「人間として」それをなさいました。私たちも堅く立ち、悪魔に対抗するために。次回、武具について学ぶときに、各武具が表すものの詳細を見ていきます。実際、私たちにある唯一の攻撃用武具は、「御霊の剣」です。その他の武具は全て、私たちを

守る防衛用です。「御霊の剣」とは何か？「神の御言葉」です。これこそ、イエスご自身が使われたものです。イエスは具体的に「申命記」の御言葉を引用されました。イエスは、御霊の与える剣、神の御言葉を使って悪魔に対抗され、悪魔は逃げ去りました。

さて、救い主の模範があっても、私たちにはまだ対処すべき問題があります。

問題はこれです。繰り返しますが、サタンは大変巧妙に、戦略的に、「私たちを非難」します。ここでまた、「ローマ人への手紙 8 章」の御言葉に戻ります。敵は、過去に私たちが失敗した事柄を利用し、非難し、再び私たちが倒れるよう試みます。

これを説明したいので、辛抱して聞いてください。

私がここまで話した全ては、この為です。今日、時間をかけてお話ししたいことです。

この為に、今日は、急いで武具の箇所を教えたくなかったのです。これが問題です。

サタンが成功しているのは、私たちが立たず、敵に抵抗せず、敵の策略にはまって、餌食になるよう仕向ける事です。

再度言いますが、大変巧妙です。敵は”非難”を使います。私たちの罪の性質は、それを信じ込んでしまいます。つまり、サタンがやってきて、こう暗示します。

「ほ～。お前は立てないさ。どうせまた失敗するって、分かっているだろう？神に許しを請うのか？またしても？！神がお前を赦し続けると思っているのか？！」

こういう非難が来て、ただただ罪悪感が...敵は、巧みに、私たちの人生に、罪悪感と非難の基盤を築く作業に成功します。そうすると、私たちは勝利ではなく、不必要にも敗北の道を歩んでしまいます。皆さんに率直に言います。これをお伝えして、皆さんが、不快な気持ちにならないのを願います。

しかしこれは、長年、クリスチャンとして私が経験していた事です。

クリスチャンになりたての頃です。私はすっかり打ち負かされていました。私は、サタンの非難の重圧に、押しつぶされながら生きていたからです。敵は四六時中、すぐそこにいたのです。「またやったんだ。もう二度としないと、神に言ったのではなかったのか〜?」「そうです...」

ところで、私たちがこれを全て解決できる望みがありますか？私たちが神に、「本当に赦してください。もう二度としません。」という時、神がこう仰ると思いますか？

「二度としないなら、じゃあ赦そう。しかし、またするなら、もういい！終わりだ！」

これはバカバカしく聞こえますが、まさにこれを皆さんと私の人生において、サタンがしているのです。そして私は、クリスチャンとして、クリスチャン生活で、これを何年もの間、経験していました。敵が私を非難し、私は「そうです。その通りです。」

となります。「こんな事をするなんて!」「本当に。ああ、どうしよう...!」「お前はまたやったのだな。」「そうです、私は、またしてもやってしまった。またしても...」

「私はもう 2 度としないと言ったのに、どうしよう、またやってしまった。ああどうしよう...。距離を置いた方が良い...」そうでしょうか？

「ローマ人への手紙 6 章 14 節」まだローマ書を開いていますか？いくつか節を戻って、14 節に行ってもらえますか？パウロが言っていることを聞いてください。

—ローマ 6:14—

罪があなたがたを(キーワード)支配することはないからです。…

理由はこれです。

...あなたがたは律法の下にではなく、恵みの下にあるのです。

馬鹿げたように聞こえるでしょうが、私には馬鹿げる賜物があります。サタンは、聖書の聖句を隠したいのです。この「ローマ人への手紙 6 章 14 節」は、サタンの”隠したいものリスト”のトップにあります。「いや〜ちょっと待て。私の非難と罪悪感の基となるものを壊すな！」という感じでね。

ところで「ローマ人への手紙 8 章 1 節」、サタンが隠したい、聖書から取り去りたい、もう一つの節です。

—ローマ 8:1—

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

この意味がお分かりでしょうか？私は...

主よ。私がこれをできるだけ簡単に説明できるよう助けてください。

どうかお聞きください。最善を尽くして説明します。この為に私はメモに頼るのです。自分の罪の罪悪感と非難は、もはや私を支配し、縛りません。私は、律法の下にいないからです。サタンは私を律法の下に留ませたいのです。そうすれば、私を非難し続けられるから。しかし私は、律法の下にいません。私は恵みの下にいます。

悪魔の真実を知ってください。イエスが仰いました。この順番がまた面白いですが、敵は、「盗み、殺し、滅ぼす」為に来ると。それが、敵の計画です。(ヨハネ 10:10 参照)「神は私たちの人生にご計画がある」といつも私たちは言っていますね。サタンも、私たちの人生に計画があるのを知っていましたか？

ところでそれは、「エレミヤ書 29 章 11 節」ではありません。

—エレミヤ 29:11—

私自身、あなたがたのために立てている計画を良く知っている一主のことばー。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

私たちは皆んな、その節が大好きです。サタンは似た節を持っています。

「私はあなたに立てている計画がある。私のあなたへの計画は、盗み、殺し、滅ぼすことだ。私はあなたを憎んでいる。」

ではごきげんよう。そうでしょ？それが敵の計画です。では、敵はその計画を、どのように実行するのか？お〜。敵はその手で、私たちを落とせると知っています。言わば、私たちは陥りやすいからです。どういう意味か？私たちは誰もが、こういう風に教えられ育ったので、この概念に影響されやすいのです。そうでしょ？

「良い子にしていれば、良いことがある。」「悪い子だから、、、」間違いなく学校では...どうか誤解しないでください。メールは結構です。全教育制度が、これを前提に構築されています。違いますか？私は何も軽蔑するつもりはなく、ただここの動力を説明しようとしています。私たちは、子どもの頃、こんな風に教えられました。「90点や100点を取れば、成績表に5とか4がつきます。」または、私みたいだったら、学校生活で一度も、4や5を見た事がないでしょう。もっと低い他の数字が並んでいました...とにかく、だから、悪い成績を取って家に帰ると...おお...特に父親が、私の父のように教師だったら？私は教師の息子でした。

これ以上は話しませんが、でもとにかく、私が悪い成績を取って家に帰ると、父が怒ります。そこで私は、どうするのか？ここで私は、自分の父親のレンズを通して、天のお父様を見て考え始めます。もし悪い成績を取って家に帰ると、この地上の父親が

激怒するとすれば、もし私が良くないことをしたら、天のお父様も激怒する、と考えませんか？考えてみてください。「ああ！またやってしまった！」するとサタンは、そこにいて、こんな風に言います。「まったく、どうしようもないヤツだな。もし俺が、お前だったら・・・とにかく、しばらく距離をおくね。また祈って、許しを願うのか？！神が、またお前を赦してくれると思うのか？」または、大変な一週間を過ごして、教会に行きたくないと感じ、「もし教会にいる人たちが、お前がしたことを知ったら…？」私がこんなことを言った後に、隣にいる人を見ないように。－（笑）－

木曜日の夜の礼拝で、これについて話しましたね。「詩編 42 篇と 43 篇」は、ダビデが書いたと私は信じていますが、その中で、ダビデはエルサレムにいて、幕屋に神の民が集まっていたことを思い出しています

ある人は、ここでダビデは、自分が息子アブサロムから逃げていた時のことを思い出していたのだと言います。その時ダビデは、神の民との交わりと、神の民との礼拝を恋しく思っていました。ヘブル人への手紙（10:25 参照）に、「ある人たちのように一緒に集まることを止めてはならない」とあります。

ちょっとお付き合いください。時計を外して、これを使って描写します。

時計といえば、面白い話を思い出します。牧師が時計を外すと、息子が尋ねます。

「時計を外して説教壇に置くのはどういう意味？」それに対する、父親の答えは、

「全く何の意味もない。」それはさておき、これは描写ではありません。

ところでこれは、TIMEX の時計で、39.99 ドルだったと思います。

これをひと舐めしても、チクタク動き続けます。－（笑）－

若い人たちには意味が分からないでしょうね。－(笑)－

大丈夫ですよ。この時計は、組み立てられています。どういうことかと言うと、この時計の全部品があったとして、複雑な部品、例えばバネ、ダイヤル、などすべての部品があり、それらをただ集めただけでは、機能しません。しかし、これを組み立てた時に、機能します。私が何を言いたいのか分かりますね？私たちが、神の民として、一緒に集まる/組み合わせるとき、それぞれが、異なる体の各部分として機能し始めます。この場所でのミニストリーの働きとは、説教壇から会衆席だけではありません。あなたとあなたの間にもあります。共に交わり、一緒に祈り、一緒にパンを裂く。これ以上に、私の心が祝福されることなど他に何もありません。

これが「使徒の働き 2 章 42 節」で、初代教会がしていたことです。これが、キリストの体、信者の集まりには必要不可欠なのです。また、これが健全なことで、健全な体の機能です。サタンがなぜあなたを教会に行かせたくないか分かりますね？それが理由です。

ところで、木曜日の夜の聖書の学びは 7 時からここです。この聖域で、木曜の夜 7 時からです。すると、木曜日の 5 時頃になると、眠くなるし、疲れるし、疲労困憊で一週間の疲れが、どっと襲って来ます。「ああ、大変は日だったから、本当に教会へ行く気になれないよ。」おお～。そりゃそうです。敵はあなたを教会へ行かせたくはないのだから。サタンは、神の人々が集まる交わりにあなたを行かせたくありません。しかし、そこであなたが立ち上がり、敵に抵抗して、教会へ行くと、まるで、今日の賛美の最初の曲のようで、これがもう素晴らしいのです！まず何より初めに、あなたに襲い掛かっていた眠気や疲れが吹き飛びます。なぜか？悪魔が去るからです。悪魔は逃げ出し、うまく行きませんでした。ざま～みろ。

あなたが御言葉を読むとき、こんな感じですね？「...私..は..あなたに...計画を..持っている...」（眠気が襲ってくる）それは、どこからくると思いますか？または、祈りについて話しましょう。「ほ～お前は祈ろうとするのか？」サタンは、クリスチャンが祈らないようにあらゆる試みをします。サタンは、クリスチャンを御言葉から離そうとします。サタンはクリスチャンを、神の人々と共に集まることから遠ざけようとしています。

ここでまとめてみましょう。なぜサタンは、私たちが非難し続けるのかというと、もしもサタンがこの非難を続けることに成功すれば、私たちが罪に陥らせ続けることに成功するからです。サタンは、私を罪に陥れたいだけではなく、私を、神と神の素晴らしい恵みから引き離すというサタンの計画が達成します。サタンはあらゆることを繰り返し、私に待ちうける神のご計画の恵みを受けられないようにします。サタンはそれを知っています。私がそれを知っているのを、サタンは知っています。そしてサタンは私に、最後にそれを受け取らせたくありません。サタンはどうやって、それを遠ざけようとするのか？「非難すること」です。私の書棚にある本をご紹介します、締めくくりたいと思います。大事な古書で、長年に渡り、本当に私は助けられました。著者は、ロイヘッション。私のお勧めの「カルバリーの道」の著者です。まだお読みでない方は是非。この著書の題名は、「Forgotten Factors/忘れられた要因」。私にとって、彼の説明はとても分かりやすく、悪魔の非難の下で生きることが、どれほど私たちを支配し、縛り、さらなる罪に陥しいれるかを書いています。お聞きください。

「絶望の下にいと、我々は意欲を失いさらなる罪に陥っていく。我々の霊的状况がすっかり死に、満たされないままになるとさらに罪を重ねたところで、その状况がさ

らに悪化するとは感じなくなり、『だから、罪を犯そうじゃないか。』と。この状況の中で、一般的に我々が望むのは、恥ずべき罪を隠そうとすることである。しかし...、
(注意して聞いてください。) 我々が罪を隠し続ける限り、我々は非難され続ける。そして我々は、さらにどんどん支配されていく。」これで全て分かるでしょう。

「我々を刺激して罪を犯させようとする、サタンの本当の目的は、我々に、何か論理に反することをさせるだけではなく、我々がそれに陥った時、サタンは、我々を告発する機会を得るのだ。黙示録 12 章に、サタンは、『兄弟たちを告発する者』と呼ばれている。そして、その状況下で、我々は無力にされる。負けてしまい、勝利者ではなくなり、ただ無力になる。汚い行為をしたクリスチャンは、あくる日、自分自身が全くの犬のように感じて、神を見上げたくなくなり、クリスチャン仲間の目が見れなくなる。霊的なものを受け取るよりも、むしろ逃げ出すか、隠れようとするだろう。これが、悪魔にそそのかされてクリスチャンが罪に陥った時の結果であり、これが、悪魔の目的だ。」

再度、率直に言わせていただいて、締めくくりたいと思います。

私が罪を犯すと、主の下へ行き、自分の罪を告白します。主は、忠実で正しいお方で、私の罪を赦してくださり、私を全ての不義から、清め洗ってくださいます。『瞬時に。』です。神は、それについて考えもされません。こんな風に仰ったりしません。「それはどうかな。JD、頼むよ。お前は牧師なんだ。ちょっと 2、3 日考えさせてくれ。」
そうですか？ 敢えて言うなら、それは冒涇です。「えっ？」 そうです。どうしてそうなのか説明します。後で「聖書預言・アップデート」でも見ていきますが、イエスは十字架で、完全に御業を完了されたのではなかったですか？ イエスは、「完了した。」

と言われたのではなかったですか？（ヨハネ 19:30）イエスは言われませんでした。

「完了はした...けど、後で分かるよ。」とは。「とりあえず、何年か祈りなさい。これに関しては、まだ判決は出てないのだし・・・これはかなり酷い。あなたがあんな事を言うなんて...あんなことをしたなんて...あんなものを見たなんて...」皆さん、それぞれ当てはめられますね？違います。恵みが待ち構える場所に、私が行くのに遅れば遅れるほど、その間、私は不要にも、悪魔が私の人生をほしいままにする為の、白紙の小切手、署名入り小切手、無期限の小切手を渡し続けることになります。悪魔は大変陰湿で、私が完敗するまで延々と、私を主から、主の恵みから、主の赦しから、主の慈悲から、引き離そうとします。子どもや孫のいる皆さんに、親として質問したいと思います。「子どもの苦しみは親の苦しみ」という言葉があります。私自身の人生において、それについて考えていました。私の子どもたちは、私にとって素晴らしい喜びの源であり、また、大きな悲しみの源でもあります。彼らが苦しんでいるのを知ると、私には、大きな悲しみがあります。心から子どもを愛する親なら、彼らが苦しんでいる時、深い悲しみがありますね？子どもが傷ついている時、皆さんも傷つくでしょう。そうならなおのこと、神の子どもの私たちが傷ついている時、神の御心がどれほど傷ついておられるでしょうか？愛に満ちた天のお父様が、ご自分の子どもたちが、このような敗北の人生を歩み、生きる事を望んでおられると思いますか？神はそんなことを望んでおられないと保証します。特に、神が既に私たちに勝利をもたらされておられるのですから、そんなことを望んでおられるはずありません。皆さんの人生において、敵に道を譲らないでください。敵に、皆さんにそれをさせないでください。ここで止めてください。今止めるのです。そして敵に言うのです。

「さがれ！お前は敗北した敵だ。お前は嘘つきだ。」と。「牧師さん、私に、声を出して悪魔に言い放てと言うのですか？」ええ、先週、私たちは学びましたね。悪魔は偏在はできません。だからそれは実際には悪魔ではなく、その手下です。もし悪魔がそこにいるなら...皆さん、聞いてください、悪魔は偏在できないから、それで悪魔があなたのところにいるなら、わお～。礼拝後話しましょうか。だって、あなたはどれほど重要人物ですか？はい。声に出すことを提案します。敵が、何者であるかはっきり告げます。そして大きな声で言い放ちます。皆さんの何人かには、これが変な話に思えるかと思います。でも、私は敵に言います。

「お前は嘘つきだ。お前は嘘つきだ！」

「ここから出ていけ！お前は敗北した敵だ。」

ええ・・・でも、敵は私に、恐れを霊を与えようとしています。

「違う！神は私に言われました。「恐れてはならない」なのに、私に「恐れろ」と言うなら、お前は嘘つきだ。私は恐れる必要などない。心配する必要などない。ここから出ていけ！ここに、お前ができることなどない。私から離れろ！私の子どもたちから離れろ！私の結婚生活から離れろ！私の妻から離れろ！ここから出ていけ！この教会からも出ていけ！」

聞いてください。私たちは・・・同じ事を言い続けていますが、私たちが武具を身につけると・・・クリスチャンの信仰は戦いであるにご存知ですか？皆さんがそれを好きかどうか分かりませんが、しかし、これは遊び場ではなく、戦場です。戦いであり、奮闘です。私たちが、クリスチャンの信仰と呼ぶものは、命がけの戦いです。戦争です。悪魔が戦いを探しているとなれば、悪魔は、私の中で戦いますよ。なぜなら、私

は戦いを受けますから！泣き言など言いません。引き下がったり、口ごもったりしません！私は信仰によって戦います！戦いたいなら、かかって来い！もちろん分かりますよね...ー（笑）ー 私は大口をたたきますよ！誰が私の背後におられるか、知っていますから。この戦いは、そのお方に敵対するものです。無割礼のペリシテ人に対抗するダビデのように感じます。ペリシテ人は、こんな感じで大きな口をたたきます。まあ、それは別の話ですが。話を逸らさせないで！

では、祈りで締めくくりましょう。皆さんの恵みに感謝します。

天のお父様、主よ、ありがとうございます。主よ。ありがとうございます。私たちが勝利者であることに感謝します。私は今日ここに、サタンが支配する非難の重圧の下にいる方々のために祈ります。それも、今日で終わりますように。彼らがこの美しい教会から出て、帰っていく時、頭を高く上げ、あなたの御力によって、勝利に歩み、堅く立てますように。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Ru